

## 1. 学歴

2002年 3月 慶應義塾大学経済学部卒業  
2002年 4月 東京大学大学院経済学研究科経済史専攻修士課程入学  
2004年 3月 東京大学大学院経済学研究科経済史専攻修士課程課程修了  
2004年 4月 東京大学大学院経済学研究科経済史専攻博士課程入学  
2009年 3月 東京大学大学院経済学研究科経済史専攻博士課程修了  
2009年 3月 東京大学博士(経済学)号取得

## 2. 職歴・研究歴

2009年 4月 慶應義塾大学経商連携グローバル COE 研究員(PD)  
2010年 4月 一橋大学大学院経済学研究科講師

## 3. 学内教育活動

### A. 担当講義名

#### (a) 学部学生向け

経済史入門, 経済史 C

#### (b) 大学院

現代経済史, 日本経済史, ワークショップ, リサーチワークショップ

### B. ゼミナール

学部前期, 学部後期, 大学院

### C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部授業(「経済史入門」「経済史 C」)では近世・近代(17~20世紀)における日本経済の変容過程について、産業・流通・貿易構造といったマクロ的視点だけでなく、身近なテーマや人々の営み(労働や生活の変化、私が研究対象としている温泉地や観光地における温泉観光業の動向、当時の人々の余暇の過ごし方など)に関するミクロ的な視点にも焦点をあてながら授業を行っています。

学生には、複雑化する現代社会の諸問題を解決するためにも、歴史研究を通して、日本や世界の現状を相対化する眼を養ってもらいたいと考えています。そのためにも、現状の日本経済や経済史について幅広い関心を持ってもらう一方、大量にあふれる情報や知識に流されない力(能力)を大学時代に身につけて卒業してほしいと思います。「経済史」という学問は、歴史的に物事を把握することで現在を相対化する視点を養うことができる学問です。学部ゼミでは、周りの情報に流されない洞察力を身につけてもらうために、日本経済史の知識や情報を伝えるだけでなく、自分の生活や住む地域との関わりを考えながら、地域経済のあり方や歴史に関心を持てるように、資料収集やフィールド調査の方法など自分で資料収集ができる力を養います。そして、自分が関心を持ったテーマについての実証論文(卒業論文)の執筆がゼミ活動の中心になります。

## 4. 主な研究テーマ

### (1) 近現代日本の資源管理(温泉資源を中心に)

近代以降の温泉地における源泉利用のあり方を分析することで、近代日本の「近代的土地所有権」制度下における資源利用の特質を解明するが目的です。地域社会で秩序づけられていた資源利用のあり方が、近代以降の「近代的土地所有権」の確立の中で、どのように国家の公共的な機能に組み込まれ、他方、地域の公共関係の生成とどのような関わりを持ったのかが私の問題関心になります。

### (2) 食品産業史

生活に身近な産業である食品産業の歴史的展開について、主に、第一次大戦期から現代までの缶詰産業を対象に研究を行っています。不安定な原材料供給と多様化する消費動向との間で企業間での競争や企業経営がどのように行われているのか、原材料－生産－流通－消費の連関に着目し分析しています。

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

「近代日本における資源管理—温泉資源を事例に—」(博士論文), 東京大学, 2009 年。

#### (b) 論文(査読つき論文には\*)

\*「温泉地における源泉利用—戦前期熱海温泉を事例に—」『歴史と経済』191 号, 2006 年, 41-58 頁。

\*「地域社会における資源管理—戦間期の熱海温泉を事例に—」『社会経済史学』73 巻 1 号, 2007 年, 3-25 頁。

「温泉観光地の形成と発展—戦間期の静岡県を事例に—」『東西交流の地域史—列島の境目・静岡』, 2007 年, 185-202 頁。

\*「株式会社による源泉管理—長岡鉱泉株式会社を事例に—」『経営史学』43 巻 3 号, 2008 年, 3-27 頁。

「缶詰産業の企業化と生産地域の展開—静岡県を事例に—」加瀬和俊編『戦前日本の食品産業—1920 年～30 年代を中心に—』(東京大学社会科学研究所研究シリーズ ISS Research Series No.32), 2009 年, 103-128 頁。

「温泉権取引の展開—戦前期熱海温泉を事例に—」慶應義塾大学経商連携グローバル COE 「市場の高質化と市場インフラの総合的設計」, DP2009-30, ディスカッションペーパー, 2010 年, 1-30 頁。

「新聞販売業の再編と展開—関東地方を中心に—」加瀬和俊編『戦間期日本の新聞産業—経営事情と社論を中心に—』(東京大学社会科学研究所研究シリーズ ISS Research Series No.48), 2011 年, 103-128 頁。

\*「産業化による資源利用の相克—戦前期常磐湯本温泉を事例に—」『社会経済史学』, 77 巻 4 号, 2012 年, 505-525 頁。

\*「書評論文 金澤史男『近代日本地方財政史研究』の理論的射程—経済史と財政史の境界からの考察」『三田学会雑誌』105 巻 1 号, 2012 年, 87-97 頁。

「近現代日本における「資源」利用・管理の歴史研究—経済史研究を中心に」『歴史学研究』893 号, 2012 年, 57-63 頁。

「自然資源経済への歴史学的アプローチ」『一橋経済学』6 巻 1 号, 2012 年, 1-14 頁。

「解説Ⅱ-6 資源循環と地域社会」中西聡編『日本経済の歴史—列島経済史入門』名古屋大学出版会, 2013 年, 166-167 頁。

「近現代日本における温泉資源利用の歴史的展開—多目的利用の観点から—」『一橋経済学』7 巻 2 号, 2014 年 21-43 頁。

\*「源泉利用を通じた地域行財政運営の歴史的変容：戦前期道後湯之町を事例に」『歴史と経済』223 号, 2014 年, 39-56 頁。

「1930 年代における温泉経営の展開と転地療養所運営：愛媛県道後温泉を事例に（特集 1940 年代の地域社会と人の移動：日本帝国膨張・収縮期の地域社会）」『三田学会雑誌』107 巻 3 号, 2014 年 10 月, 317-342 頁。

\*研究動向「「地域」経済史研究の現状と課題—近代日本経済史研究を中心に—」『歴史学研究』929 号, 2015 年, 21-28, 38 頁。

「戦間期における観光産業の展開と旅行費」加瀬和俊編『戦間期日本の家計消費—世帯の対応と限界』（東京大学社会科学研究所研究シリーズ ISS Research Series), 2015 年。

「戦後県政と地域経済—経済・開発政策を中心に—」静岡県近代史研究会編『時代と格闘する人々』（静岡大学人文社会科学部叢書 39）羽衣出版, 2015 年 3 月, 233-249 頁。

「温泉観光地の発展と地域変容—伊豆半島を事例に—」静岡県近代史研究会編『時代と格闘する人々』（静岡大学人文社会科学部叢書 39）羽衣出版, 2015 年 3 月, 271-288 頁。

\*「温泉観光地の戦後—高度成長期熱海温泉における女性労働力の歴史的変容」『人民の歴史学』205 号, 2015 年 9 月, 1-16 頁。

「日本経済史研究の現状と課題—地域史料との関わりへ」東京歴史科学研究会編『歴史を学ぶ人々のために—現在をどう生きるか』岩波書店, 2017 年 3 月, 205-221 頁。

\*「近現代日本の源泉利用—地域社会による対応—」『歴史と経済』235 号, 2017 年 4 月, 11-17 頁。

「近代の熱海と軍隊」「熱海温泉の噺瀧館」「近代熱海における交通インフラの進展」「熱海の旅館経営を支えた女性たち」「熱海温泉郷としての発展とその展開」「熱海温泉の生活インフラ整備」「熱海の温泉組合共同浴場」「温泉取締規則、温泉場組合規則、温泉使用条例、入湯税」熱海温泉誌作成実行委員会『市制施行 80 周年記念 熱海温泉誌』出版文化社, 2017 年 4 月, 152-157, 158-162, 210-217, 234-243, 248-257, 258-269, 270-273, 340-355 頁。

「温泉経営の展開と市町村合併—愛媛県道後温泉を事例に—」柳沢遊, 倉沢愛子編『日本帝国の崩壊』慶應義塾大学出版会, 2017 年 4 月, 201-234 頁。

「森林資源と土地所有」「解説 3 温泉と開発」「テーマⅡ 進歩と環境」中西聡編『経済社会の歴史—生活からの経済史入門』名古屋大学出版会, 2017 年 12 月, 66-85, 86-88, 115-122 頁。

「資源利用における行財政の役割と過剰利用の影響—温泉資源を事例に」四方理人, 宮崎雅人, 田中聡一郎編『収縮経済下の公共政策』慶應義塾大学出版会, 2018 年 3 月, 129-151 頁。

#### (d) その他

書評 柳澤悠・栗田禎子著『アジア・中東・共同体・環境・現代の貧困-』『歴史と経済』221 号, 2014 年, 75 頁-76 頁。

書評 永江雅和著『食糧供出制度の研究：食糧危機下の農地改革』『歴史評論』772 号, 2014 年, 95-99 頁。

書評 北條浩・村田彰『温泉権の歴史と温泉の集中管理』『歴史と経済』224 号, 2014 年, 71-73 頁。

文献紹介 早乙女勝元(監修), 東京大空襲・戦災資料センター(編)『決定版 東京空襲写真集』『人民の歴史学』207 号, 2016 年 3 月, 26-28 頁。

書評 坂口正彦著『近現代日本の村と政策—長野県下伊那地方 1910~60 年代』『國學院雑誌』117 巻 4 号,

2016年4月, 46-50頁。

書評 沼尻晃伸著『村落からみた市街地形成—人と土地・水の関係史 尼崎 1925-73 年』『歴史学研究』954号, 2017年2月, 49-52頁。

館林市『館林市史 通史編3 館林の近代・現代』2017年4月, 104-107, 114-119, 172-178, 182-184, 206-207, 212-216, 245-253, 310-312, 364-366, 416-427頁。

## B. 最近の研究活動

### (a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には\*)

\*「温泉観光地の戦後：高度成長期熱海温泉における女性労働力の歴史的変容（特集 女性の生存と労働：地域の戦後史 第四九回東京歴史科学研究会大会委員会企画）」東京歴史科学研究会, 第四九回東京歴史科学研究会大会委員会企画, 明治大学, 2015年4月27日。

\*「近現代日本の温泉資源利用—地域社会による対応」「資源利用・管理における『国家』『地域』」政治経済学経済史学会 2016年度秋季学術大会, 立教大学, 2016年10月23日。

### (b) 国内研究プロジェクト

「『日韓相互認識』研究の深化のために」科学研究費補助金(基盤研究 A), 研究分担者(研究代表者:吉田裕), 2010 - 2014年度。

「『日韓相互認識』研究の深化・発展のために—東アジア情勢のなかで—」(基盤研究 A), 研究分担者(研究代表者:吉田裕), 2014 - 2019年度。

「『日韓相互認識』研究の新展開」(基盤研究 A), 研究分担者(研究代表者:吉田裕), 2018 - 2023年度。

「現代備後地域経済の形成過程に関する総合的研究:技術蓄積とネットワークの視点から」(基盤研究 C), 研究分担者(研究代表者:張楓), 2016 - 2018年度。

「近代日本の地域社会と軍隊—温泉地の療養所を事例に—」第45回三菱財団人文科学研究助成, 2016年度。

---

## 6. 学内行政

### (b) 学内委員会

全学共通教育委員(2011年9月 - 2014年3月)

附属図書委員会委員(2015年4月 - 2017年3月)

---

## 7. 学外活動

### (a) 他大学講師等

立教大学文学部兼任講師(2013年度, 2015 - 2016年度)

青森公立大学経営経済学部非常勤講師(2013年度 - )

慶應義塾大学経済学部非常勤講師(2015年度)

### (b) 所属学会および学術活動

政治経済学・経済史学会(研究委員 2011年度 - )

社会経済史学会

経営史学会

歴史学研究会(編集委員 2010 - 2012 年度, 2017 - 2018 年度)  
同時代史学会(理事, 2012 年度 - , 会計担当委員 2017 年度 - )  
東京歴史科学研究会(委員 2014 年度 - )  
日本温泉地域学会(監事 2018 年度 - )

### (c) 公開講座・開放講座

「熱海温泉における温泉組合—明治から現代まで」熱海市立図書館主催, 図書館講座『熱海の歴史をひもとく』, 2012 年 11 月。  
「高度成長期における熱海温泉郷の拡大と周辺地域の変化」熱海市立図書館主催, 図書館講座『熱海の歴史をひもとく』, 2013 年 12 月。  
「近代日本における戦争と熱海—傷病兵を中心に」熱海市立図書館主催, 図書館講座『熱海の歴史をひもとく』, 2014 年 9 月。  
「近代日本における資源管理—温泉資源を事例に—」中央温泉研究所, 『温泉保護管理研究会』, 2014 年 10 月。  
「高度成長期の熱海における女性達—旅館従業員を中心に—」熱海市立図書館主催, 図書館講座『熱海の歴史をひもとく』, 2015 年 9 月。

### (d) 高校生向けの出張講義・模擬講義

「地域からのエネルギー転換—地熱利用を中心に—」東京都立大泉高校 2014 年 12 月。  
「資源利用から見る静岡県の歴史—温泉地を事例に—」静岡県立韮山高校 2014 年 12 月。  
「地域からのエネルギー転換—地熱利用を中心に—」私立開智高校 2015 年 5 月  
「資源利用から見る静岡県の歴史—温泉地を事例に—」静岡県立沼津東高校 2015 年 10 月。  
「地域からのエネルギー転換—地熱利用を中心に—」千葉県立船橋高校 2016 年 11 月。

### (e) その他(公的機関・各種団体・民間企業等における講演等)

パネル・ディスカッション(コメント)「一国史 vs 広域史—グローバル・ヒストリーの枠組みは必要か?」社会経済史学会次世代研究者育成ワークショップ, 2012 年 9 月

---

## 8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

館林市史調査員(2012 年度 - )  
熱海温泉誌編集委員会副委員長(2014 年度 - 2017 年度)